

令和6年度 柏市地方創生総合戦略評価委員会 補足

1. 考えられる未達要因や達成に向けて今後必要と思われる取組み・アイデア
2. 事前意見・質問に対する補足説明

令和6年12月24日（火）

基本目標1

子育てに関する情報の充実

- ・ 情報収集の多様化という点は理解できるが、WEBページとSNSの性質は分けて考える必要があると思う。子育て関連誌の収集には体系だったWEBページの充実が求められると考える。WEBページのアクセス減少は、情報収集手段の多様化だけでは整理できないのではないかな。
- ・ WEBのリンク先の該当年齢を精査して欲しい。
- ・ 子育てに関しては、子どもの成長段階や人数、母親の仕事や保育状況など、多様なニーズに応じていく必要があると思われるため、細分化した検索リストなど整備するとよいのではないかな。
また、課題方針にあるように、個別対応ができるよう、相談機能や利用者同士の情報交換ができるような仕組みになるとよいのではないかなと思う。

1. 考えられる未達要因や達成に向けて今後必要と思われる取組み・アイデア つづくを、 つなぐ。

基本目標2

生活習慣病対策の推進・フレイル予防の推進

・ウォーキングパスポートの取組みで準備されている「おさんぽMAP」は、違うコースを考えるのに、よいMAPだと思う。このようなMAPをスマホ版を用意して、市民からお勧めのコースを投稿してもらうなど、情報を集めてもよいと思われる。

フレイル予防の推進のWAONポイントの取組みと、連携してはどうか。

・ポイント付与端末が限られた場所にあるため、誰でもが気軽にとまではいけないように思えた。ポイント制度の対象が40歳以上なので、スマートフォンのアプリを用意して、アプリから登録やWAONとの連携をする仕組みにしてはどうか。

また市が指定する事業、ボランティアのみではなく、個人のウォーキングによる歩数で、ポイント換算できるようにすると、参加意識が高まると思う。

・フレイル予防が目的であるため、ポイント付与は手段として、端末利用だけではなく、様々な社会参加の機会の提供と発信が必要。ポイント付与イベントや市民活動団体への付与など、さらに拡大・連動させるしくみの構築と周知が求められる。

基本目標3

生産性の向上・消費の拡大

・大手農業法人だけでなく一農家への支援が急務。旧沼南地域の若手域の農家ですが、昨今の高騰により機械が壊れたら離農するという話をよく聞く。就農して10年以上経つが、当方としては市からニーズを聞かれた覚えはなく、できれば新しい物への関心が高い若手の意見も汲み取って欲しいと感じる。

また、なるべくなら一圃場にも足を運んでみて欲しいと考えます。松戸市では主要な機械への助成事業は済み、市街での作業に欠かせない乗用草刈機やチップパーにも助成が及んでいると聞く。

必須である農薬散布の機械などは倍の価格になっているため、是非ニーズを汲み取ってもらい、離農を思いとどまってもらう必要があると肌で感じている。

・マニュアルを目に触れやすいところに設置。メリットデメリットについて簡素にまとめ周知する。自身が受けるべきなのかの判断もついていない事業者が殆どと思われる。

共通

目標値について

目標値は基準値に対するKPIとして修正しない整理で良いか。すでに目標値を大きく超えている項目や、大きな乖離のある項目がある。本年度の具体的な行動に反映させるためにも、単年度の目標も並行して掲げるべきではないか。

総合戦略は多様な施策や事業を包括的に設定しているため、単年度の目標設定により、進捗状況や短期的な成果を評価することは難しく、総合戦略全体との整合性がとれない可能性があります。また、指標に対する実績値は、毎年度、対象者を新たに調査しており、年度や項目によって目標値を大きく上回る可能性があることから、中長期的な視点により目標を設定しております。

基本目標1

親子で交流できる場の充実

事業

～はぐはぐひろば（地域子育て支援拠点）事業の整備運営～

評価指標にあげている利用数は、「こあら」「はぐはぐひろば」など、全施設のトータル人数でしょうか。また、全対象者のうち何割の方が利用しているか、わかれば教えてください。

評価指標にあげている利用数は「はぐはぐひろば沼南・柏たなか」の2施設の利用数となります。

施設利用の対象者は「未就学児とその保護者、プレパパ・プレママ」としておりますが、利用者数は延べ人数となることから利用割合は把握しておりません。

基本目標1

子育てに関する情報の充実

事業

～「子育てサイトはぐはぐ柏」，「はぐはぐ柏Instagram」及び「柏公式LINE（子育て・教育ジャンル）」の運用～

WEBページの情報量や体系化について近隣自治体と比較して充実度はどうでしょうか。また，SNSは発信だけにとどまらず，WEBへの誘導・認知向上が図られているでしょうか。

各自治体では、子育て施策に関してさまざまな工夫を凝らしており、Webページの情報量等について一概に比較することは難しいですが、本市においては「年齢別」や「シーン別」に情報をまとめて掲載するなど、利用者にとってより分かりやすく、かつ充実度の高いホームページとなるよう見直しを随時行っております。

また，WEBへの誘導・認知向上については，SNSでの情報収集が主となった現在も重要であると認識しております。SNSで情報発信を行う際にはホームページ等のWEBサイトへのリンクも併せて掲載し，誘導を行っております。今後もSNSとWEBサイトそれぞれの特性を活かし，多くの方へ情報が行き届くよう努めてまいります。

- ・新型コロナ第5類移行後は、各地の子育て支援拠点（はぐはぐひろば、こあら）への来場者数が増えており、コロナ禍で検索されたSNSも利用機会が減っているということはないでしょうか。
- ・掲載内容について、ニーズ把握と状況の変化によるアップデートなどがどのような頻度で行われているのか、検証する必要があるのではないのでしょうか。

・ご指摘の通り，コロナ禍においては外出頻度が減少したため，自宅で情報を収集できるSNSの活用が大きく増加したと考えられます。しかし，第5類への移行後においても，市の公式Instagram等のフォロワー数の増加からも明らかなように，コロナ禍と変わらず，引き続き利用者は増加しているものと考えられます。

・毎月，ホームページのアクセス解析を実施し，どの分野にアクセスが多かったのかを確認した上で，必要に応じてホームページのアップデートを行っています。また，今年度から本格的に運用を開始した市民ライター（子育て中の柏市民）との情報交換を年に複数回実施しており，その際にも情報の収集を図っております。

基本目標1

子育てに関する情報の充実

事業

～「子育てサイトはぐはぐ柏」，「はぐはぐ柏Instagram」及び「柏公式LINE（子育て・教育ジャンル）」の運用～

他媒体へ移行中とのことだが、実際に使っていると思うが、例えば1歳から2歳の頃というページを見ていたのに、いざ相談先のリンクを辿り該当要項を見ると4歳から、といった募集要項の項目に飛んでしまう。1ユーザーとしての目線になるが、とても雑なイメージを受ける。

基本目標1

妊娠から子育てまでの総合的な支援

重要業績 評価指標

～子育てに関する支援に対する満足度～

満足度調査が昨年が29.8%に対し、今年は40.1%と大きく増加しているが、具体的な要因は何か。今年と昨年で変えた取り組みがあれば教えていただきたい。

今年度大きく変えた取組はございませんが、WEB調査の設問設計を若干変更しております。昨年度までは、「満足している」と「不満である」，「どちらともいえない」の3択だった設問に対して、今年度は選択肢を5択に増やしたことで、各事業に対する市民の潜在的な満足度まで測ることが可能となったと考えております。また、指標に対する実績値は、毎年度、対象者を新たに調査しているため、年度によってバラつきが生じております。

基本目標1

妊娠から子育てまでの総合的な支援

No.2の子育てSNSサイトへのアクセス数が年々減少しているとのことだが、電話相談、出張相談、オンライン相談のR5年度の実件数を教えていただきたい。SNSよりも直接の個別の相談の方がニーズがあるということか。HPへの掲載で増える見込みはあるか。

- ・ 地域子育て支援拠点での子育て支援アドバイザーによる相談
対面（出張相談含む）相談：987件，電話相談：81件，オンライン相談：27件
 - ・ 保育園等の入園や，保育施設空き状況に係る相談（保育士・看護師が対応）
窓口相談：4,459件，電話相談：828件
 - ・ 妊娠から産後に係る相談（保健師・助産師が対応）
窓口相談：3,106件，電話相談：983件
- となっています。以上のことから，対面での相談ニーズが依然として高いと考えています。
引き続き，HPを掲載し相談しやすい体制づくりに努めてまいります。

基本目標 1

妊娠から子育てまでの総合的な支援

事業

～家庭児童相談事業～

児童相談については、専門職人材の待遇面の課題が取りざたされていますが、具体的な改善策は講じているか。

【給与面】令和5年度より児童相談所等の業務に対する日額1,000円の特殊勤務手当を創設したほか、一時保護施設における夜勤業務について新たに夜間特殊業務手当の対象としております。

【その他】児童相談所等の専門職の確保にあたっては、国基準以上の職員配置ができるよう計画的な採用に努めています。

児童虐待の防止については、多様な情報ソースから早期の把握と適切な対応、さらに未然防止措置などが必要と思いますが、現状どのようにされているか。

令和6年4月より、こども部こども相談センター内に新たに乳幼児担当と学齢児担当を設け、母子保健や教育機関等とも情報の共有や連携を図りながら、支援に取り組んでおります。令和8年度の「（仮称）柏市こども・若者相談センター」開設後には、児童相談所機能とも連動させた組織体制とすることで、児童虐待の防止に向けた取り組みを強化してまいります。また、迅速な情報収集や支援につなげることを目的として、センター開設に合わせて新たに構築する予定のシステムにおいて、要保護児童等に関する情報について庁内他部署のシステムとの情報連携を予定しています。

基本目標2

生活習慣病対策の推進

事業

～ウォーキング推進事業～

ウォーキングパスポートの到達申請は、歩数の到達するまでの期間は特に設定していないか。月間ごとなど期間を設定するほうが、目標設定がしやすいように思う。

ウォーキングパスポートは、特に期限を設けておらず、自分のペースで実施していただいております。次年度より、手帳形式ではなく、スマートフォンの健康アプリを活用して、色々なウォーキングメニューを楽しみながら、日々のウォーキングや健康づくりに取り組んでいただく形になります。ご提案いただいた、フレイル予防ポイントカードの取り組みとも健康アプリとして一体化し、幅広い年代のかたに活用していただけるようにしてまいります。。

基本目標2

フレイル予防の推進

事業

～かしわフレイル予防ポイント制度～

かしわフレイル予防ポイント制度の登録者数の推移はどのようになっているか。

R2年度より制度を開始し、登録者は年々増加しております。

(実績) カード発行枚数

R2 : 2,557枚 R3 : 17,653枚 R4 : 20,999枚 R5 : 24,166枚 R6 : 25,477枚 (R6年10月末現在)

基本目標2

フレイル予防の推進

事業

～かしわフレイル予防ポイント制度～
～高齢者の就労・社会参加促進事業～

ポイント付与端末機増設による活動件数がこの1年で何件から何件に増加したか。
リピーターの付与だけ増えているのではないか。実際の社会参加人数が増えているのか。
ポイント付与が増えても、評価指標の目標値には乖離があるが、どのように目標を達成できるのか。

ポイント付与端末機増設による登録団体数、活動件数の増加

(登録団体数) R4 506団体 ⇒ R5 774団体

(活動件数) R4 694,296件 ⇒ R5 946,912件

リピーターへの付与も伸びておりますが、実際の参加実人数も増加しており、社会参加につながっております。

(参加者数) R4 8,272人 ⇒ R5 11,456人

ポイント制度の利用を促進することは、社会参加のきっかけをつくり、活動の増加促進につながるものと考えます。

R2年度から4年度まではコロナ渦で外出が制限されていたこともあり、目標数値を大幅に下回りました。しかし、R5年度はセミナー開催の影響もあり、窓口来訪者数は496人まで増加しました。委員ご指摘の通り、目標値の達成が厳しい見通しとなっておりますが、引き続き、R6年度も目標達成にむけて尽力いたします。

基本目標3

手賀沼・東部地区流動人口（4月休日）

事業

～インフォメーションセンター運営事業～

手賀沼地域「小さな拠点」創出事業とは連携しているのか。

小さな拠点創出事業を実際に運営・実施するための推進体制である「手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会」における戦略会議には農政課に加えて商工観光課も参画し、観光振興の観点からの情報提供と情報共有・意見交換や提案を行っており、また、イベント等についても連携しております。

基本的な方針である戦略プランにおいても、商工観光課の意見を踏まえて記述されている箇所もあり、農を中心としつつ、商工業や観光の視点からの取組も実施されていることから、商工観光課が進めている政策とも連携が行われております。

担当課評価で今後ソフト面、ハード面の整備を検討するとしていますが、どのような事が考えられるか。

ソフト面においては、水辺空間利用として、手賀沼漁協や水上アクティビティ活動団体との連携による水上イベントの実施、柏ふるさと公園等を会場とするふるさと産品PRイベントである手賀沼オータムバルの実施や実施ノウハウを活かした民間イベント誘致、観光をビジネスとして考えている市内外の事業者誘致等を進めてまいります。また、ハード整備としては、河川管理者である県とも連携して、国土交通省が進めている「かわまちづくり計画」の策定・計画策定事項の実施により、特に、柏市側の手賀沼沿岸部において不足している水辺を感じる様な空間創出を進めるため、手賀沼中央部の水辺空間創出に取り組むことにより、交流人口の拡大に努めてまいります。

イベント時の流動増は図りつつ、同時に日常的に人が訪れたくなるような仕掛けも必要だと感じた。

基本目標3

生産性の向上・消費の拡大

事業

～農業振興対策事業～

「生産性の向上・消費の拡大」の評価指標である認定農業者数を目標値としていますが、農業者の減少が続いているので数値の見直しも必要ではないか。

ご意見のとおり、農業者の高齢化や後継者不足等を要因とした担い手減少が続く中において、目標値の見直しは必要であると考えております。「柏市都市農業振興計画」の改定（令和7年度）の中で、検討してまいります。

支援のニーズを農業者から聞くとありますが実際どの層から聞いているのか伺いたい。

「柏市都市農業振興計画」の改定（令和7年度）のため、40a以上の経営面積の農業者に対して、令和6年に農業者アンケートを実施いたしました（約1,700世帯）。当該アンケートにおいて、要望やニーズを確認してまいりました。また、農業経営基盤強化促進法等の改正法が令和5年4月1日に施行され、人・農地プランが地域計画に法定化されました。地域計画策定に係る協議な場をはじめとする様々な機会を活用し、農業者の声を聞いてまいりたいと考えております。

認定農業者については書類申請が複雑と聞いて敬遠しており、申請まで及んでいない状況です。

認定農業者の申請については、所有する施設・機械、決算資料等を参考に、農業経営規模の拡大、生産方式の合理化、経営管理の合理化、農業従事の態様の改善など、目標達成のための措置を記載した農業経営改善計画（5年後の経営目標）を作成する必要があります。当該計画の作成にあたっては、本市農政課や千葉県東葛飾農業事務所改良普及課が作成支援を行っております。

基本目標3

生産性の向上・消費の拡大

事業

～農業振興対策事業～

そもそも、認定農業者はなぜ増えないのか。どうすれば目標達成できると考えるか。

認定農業者に対する支援措置として、農用地の利用集積の支援や無利子・低利資金、税制特例、機械・施設の導入支援などのメニューが用意されています。こうした利点を含めた認定農業者制度の周知不足が理由のひとつとして考えられます。県等の関係機関と連携した周知に努めていくとともに、農業経営改善計画の作成支援に努めてまいります。

基本目標3

柏市ふるさと産品認定制度の促進

事業

～柏市ふるさと産品認定事業～

「柏市ふるさと産品認定制度」とはどのようなものか、詳細について伺いたい。
ふるさと産品の宣伝につながるイベントというのはどのようなイベントか。
また、弊行では県産品を中心に居り扱うECサイト「C-VALUE」を立ち上げており、ジョイントは可能か。

本市で製造又は加工された製品や民・工芸品等の地域資源のPR及び販路開拓を行うとともに、新製品の開発等を促進し、本市を象徴する産品の育成及び定着をさせることにより、もって事業者の持続可能性を高め、市内産業の振興及び地域経済の好循環を図ることを目的とするための認定制度となっております。

イベントとしては、市内をホームタウンとするスポーツチームのホームタウンデー（Jリーグ、ラグビーリーグ1、女子バスケットリーグ）における出展に加えて、市外で行われているイベントの出展も行っております（常磐線沿線PRイベント（上野駅・品川駅）、Bリーグオールスター（船橋市）等）。

柏市ふるさと産品に登録されている商品について、登録事業者の情報提供のうえ、希望する事業者について御行のC-VALUEに登録するよう、周知と意向照会を行うことは可能です。柏市ふるさと産品の販路拡大で連携できることは有意義と考えております。

基本目標3

柏駅周辺のにぎわいと魅力の創出

事業

～公民学連携によるまちづくりの推進～

柏駅周辺の回遊性向上とあるが、具体的な取り組みについて伺いたい。

柏駅周辺地区における都市計画道路の拡幅等の整備を進めるため、用地交渉・取得を行っております。また、柏駅西口の地下道4か所において近隣の学校、町会、商店会、国道事務所と連携し、清掃活動並びに地下道壁面への児童の作品展示による良好な生活環境の形成を行っている。小柳町通りでは、フェンスへの壁面緑化パネルの設置など、通りにおける空間の高質化を図っております。